

# 美術科 学習指導案

学 級 3年B組（男子15名，女子15名，合計30名）

授業者 阿部龍一

## 1 題材名 鑑賞「オブジェとの対話」

## 2 題材について

### (1) 教材観

本題材は学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標（3）「自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解を深め、心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。」をねらいとし、B鑑賞（1）ア「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。」に基づいて設定した題材である。

本題材では、授業者が制作した美術作品を鑑賞教材とし、印刷物などのコピーではない本物のもつ魅力を感じ取らせたい。また、作者本人から表現意図や表現の工夫を話すことができるため、直接生徒からの多様な質問に答えていくことができる。それにより作品をよりよく理解し、鑑賞に深まりが増すと考えられる。

### (2) 生徒観

前向きな姿勢で授業に取り組む生徒が多い。美術に興味・関心を持ち、意欲的に制作に取り組む生徒もいる一方で美術に苦手意識を持ち、根気強く取り組む姿勢が弱い生徒もいる。これまでの鑑賞単独での授業は没後90年の岩手県立美術館・萬鉄五郎記念美術館「萬鉄五郎展」を題材にしたものと、「詩をもとにした構想画」の導入で行った鑑賞「空想の世界」の2時間である。鑑賞の授業に興味をもち、意欲的に取り組むものの、言葉でまとめたり、感想文を書いたりすることを苦手としている生徒もいる。

美術館に足を運んで美術鑑賞に親しんでいる生徒は少なく、美術に関心のある生徒は比較的少ない。そこで、美術作品に触れる場面を多く持ち、美術の魅力を感じる体験を多くもたせることが大切だと考えている。

### (3) 指導観

本時では、美術作品に近づいてよく見せたり、手で直接触れたりすることで、技法や質感、立体感、使用されている材料等に気づかせたい。また、展示される空間や照明など展示方法の違いによる見え方の違いにも気づかせ、多面的に作品を鑑賞させたい。指導者自身の作品を使用し、説明することは、恥ずかしい気持ちもある。しかし、教師自らが制作者としての姿勢を示すことや実物の作品と作者本人による説明を取り入れることで理解が深まり、生徒の美術に対する興味や関心につながり、生涯にわたって美術を愛好する心情を育むことができればこの上ない喜びである。

作品Ⅰへの第一印象をまとめる場面では、自分の考えを整理させるために、形や色彩、材料を視点に感じ取ったことを記入させる。作品Ⅱに関連する作品やVTRを見てテーマやキーワードを考える場面では、作品の主題を考える上でのキーワードを見つけ出すことを目的に主体的に作品やVTRに向かわせる。学習課題に対する自分の考えをまとめる場面では、作品Ⅰの主題に対する自分の考えを文章と題名にまとめさせ、自分の見方や感じ方をもってグループでの交流につなげさせる。学習の振り返りの場面では、初発の感想と自己の主題の捉えを比較させ、自己の学習の深まりなどについて見つめさせ、学びの価値について自覚させる。

### 3 本時の指導（本題材は1時間扱い）

#### (1) 本時の目標

- ① 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとする。【美術への関心・意欲・態度】
- ② 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。【鑑賞の能力】

時	学習内容	書く活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オブジェ作品を鑑賞する。</li> <li>・自分の考えを発表し、考えを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感じたことや気づいたこと、考え等を文章で表現する。</li> <li>・授業を振り返り、考えを文章でまとめる。</li> </ul>	<p>【美術への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。</li> </ul> <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。</li> </ul>

#### (2) 具体の評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
【美術への関心・意欲・態度】	作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	作品の見方・感じ方は人それぞれであり、正解はない。安心して作品鑑賞することが大切であることを伝える。
◎【鑑賞の能力】	造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。	作品に表現されているものを1つ1つ確認しながら、思い浮かぶものを聞く。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	留意点 (●評価の場面と方法) (□書く活動)
導入 10分	1 鑑賞の態度について  2 作品Ⅰ「オブジェ：うぶすな」の鑑賞①	・鑑賞の心構えをもつ。  ・感想を鑑賞カードに記入する。 ・感想を発表する。	□鑑賞カードに形や色彩、材料などを視点に初発の感想を記入させる。
オブジェが語りかけてくるものは何か。			
展開 35分	3 作品Ⅱ「油彩：地天女」の鑑賞  4 作品Ⅰ「オブジェ：うぶすな」の鑑賞②	・作品Ⅱに込められた作者の想いを聞き、作品Ⅰとの関連を考える。  ・物質のもつ存在感、光、設置場所による見え方の違いに着目して鑑賞する。  ・作者の心情や効果的な造形表現等感じたことをまとめ、自分なりの題名を考える。  ・グループ交流による意見交換をとおして鑑賞を深める。	TV取材VTRを使用する。 □鑑賞カードに作品の主題に関連するテーマとキーワードを記入させる。  ・展示空間とのかかわりや、距離感、光、手で触れた感じなど作品を多面的に鑑賞させる。  □鑑賞カードにオブジェが語りかけてくるものと題名を記入させ自分の見方や感じ方をもってグループでの交流につなげさせる。  ●【美術への関心・意欲・態度】 ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。  ●【鑑賞の能力】 ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
まとめ 5分	5 本時のまとめ  6 学習の振り返り	鑑賞の深まりをまとめる。  授業を通して学んだことをまとめる。	□鑑賞カードに、初発の感想からの深まりや広がり、自己評価と見方、感じ方等の成長面を記入させ、自己の学習の深まりなどについて見つめさせ、学びの価値について自覚させる。

